

視聴者のバーチャル YouTuber の捉え方 —その設定のフィクション性に着目して—

瀬谷 浩樹

近年、生身の人間の体以外の体を持つキャラクターとして YouTuber 活動を行っている、バーチャル YouTuber (以下、VTuber) と呼ばれる存在が注目を浴びている。もちろん、VTuber はキャラクターが実際に動画投稿などの活動を行っているのではなく、その背後には VTuber に声をあて、そしてモーションキャプチャなどの技術を用いてキャラクターのモデルを動かしている人間 (中の人) が存在している。ただ、上の事実が視聴者に正式に伝えられることは基本的にはなく、VTuber はキャラクター (例えば、AI や悪魔、バーチャル世界に生きている人間など) が実際に活動を行っており中の人はいないという「設定」が視聴者に提示されることが多い。そこで本研究は、①VTuber の動画や生放送の視聴者が VTuber をどのように捉えているかと、②そういった捉え方をする視聴者がどのような人なのかを属性や価値意識などに着目して調査することを目的とする。難波 (2018) は、その VTuber が中の人に関するメタ的な発言を行うタイプなのか、それともキャラクターとしてのロールプレイに徹するタイプなのかに応じて 2 種類の鑑賞のされ方があると指摘しているが、視聴者自体についての詳しい言及はしておらず、また実地の調査も行っていない。

以上を踏まえて本研究では、VTuber の視聴者がどのように VTuber を捉えているかを詳しく掘り下げるため、半構造化インタビューによる質的調査を行った。調査対象者は VTuber の視聴者 7 人で、調査期間は 2019 年 7 月～2019 年 11 月である。

調査結果より、視聴者はグラデーションがありつつも、VTuber を前述のような設定通りに捉えている人と設定通りに捉えていない人の 2 種類に分けることができる。そして、調査対象者 7 人全員について、VTuber を設定通りに捉えている人は、作品・ジャンルを好きになるときに (実際に接していた) 他者から影響を受けていると語っておらず、一方で VTuber を設定通りに捉えていない人は、作品・ジャンルを好きになるときに (実際に接していた) 他者から影響を受けていると語っているという共通点が結果としてそれぞれ見られた。

結果の考察について、まず、作品・ジャンルを好きになるときに他者から影響を受けていると語っていない人には、影響を与えうる他者がいた場合といなかった場合の 2 つの場合が考えられる。しかしどちらの場合でも、上のような人は語りの背景で、意識的あるいは無意識的に、自分の好きなものについて他者から何を楽しむかに関する影響を受けずに自分を強く持とうとしていると思われる。また、上でも述べたように、VTuber が提示している設定は現実的ではないものが多く、関連して彼らは、VTuber を設定通りにではなく中の人がいるということも含めて楽しんでいる人が多いかのような印象を受けるのではないかと考えられる。以上より、作品・ジャンルを好きになるときに他者から影響を受けていると語っていない人は、VTuber に関しても何を楽しむかに関する影響を他者から受けずに、設定通りに捉えて楽しんでいるのではないだろうか。 (指導教員 後藤嘉宏)